



学校だより

令和元年11月29日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-ky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-ky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.502

菊根分け、あとは自分の土で咲け

校長 谷田 弘子

11月23日には、多くの保護者や地域の皆様にご参会いただき、学芸会が行われました。各学年ともに発達段階にふさわしい演目で、元気いっぱい演じる様子が素晴らしかったと思います。5・6年生は、小学校生活最後の学芸会ということで、練習段階から大変気合が入っており、当日は最高の演技をお見せすることができました。普段あまり大きな声を出さない児童が思いっきり声を張り上げて、セリフを言っている姿に感動いたしました。観客の皆さんの応援、誠にありがとうございました。

さて、「菊根分け、あとは自分の土で咲け」この言葉は、「宮本武蔵」や「新平家物語」「三国志」などを書かれた小説家の吉川英治さんが、知り合いの方のお嬢さんの結婚式の際のはなむけに贈った言葉だそうです。

菊を育てたことがある方はご存じだと思いますが、菊は育てるのに大変手間がかかります。私も、児童が一鉢ずつ菊を育てていた学校に勤務したことがあり、大変苦労しました。毎日多くの手間をかけていくことで大輪の花を咲かすことができますが、世話を忘れてしまうとすぐに病気になったり、花が小さくなったりしたことを思い出します。苗を植え、肥料や水を施し、日当りを考えるなど、絶えず気を配って育てます。葉が茂り、茎が太くなり早く花が咲いてほしいな・・・とっていると台風などで強風や豪雨が襲い、茎に支柱を添えたり覆いをかぶせたりとさらに手間がかかります。

しかし、手間をかけた分、きれいに咲いた時のみごとさや嬉しさは菊を育てた人ならではの味わいがあると思います。花の盛りがすぎると次の年のために手入れをします。菊の株が大きく育ち葉も茂っていますから、「根分け」といって、小さなまとまりごとに分けて、次の年の花を咲かせることができるように鉢を替えたり

肥料を施したりして手入れをします。せっかくきれいに咲いた鉢を小さく分けてしまうなんてもったいないと思うかもしれませんが、株を分け、根元の風通しをよくしたり、肥料を施したりすることで、次の世代の花を咲かせることができるのです。菊に限らず植物は、小分けされた鉢が大きく茂り、花を咲かせた後に、「根分け」をして増えていきます。

人間は生まれてきた時は何もできません。食事や排泄も入浴も着替えも生きることすべてにつながる行為を母親や家族に頼り、何事も周りの人に手伝ってもらって生活をしています。だからといって、いつまでも人頼みでは人の独り立ちはありません。小学校の6年間は、義務教育の前半という枠組みの中で決められた路線に守られて歩いています。しかし、小学校も4年生以降になると自分の力で前に進むようになりますし、自分の考えがしっかりしてきます。それまでは、親や学校の先生方に守られていて、自分の意志で動くということが少なかったかし知れませんが、高学年になると、自分はどのように生きていったらよいかということも考え始める時期にさしかかります。実際に自分の力だけで進んでいくのは、中学校卒業後になるとは思いますが、それに向けて独り立ちできる精神力と多少の無理にも負けない体力と人として深まりを生む豊かな心を育てていかなければなりません。まさに、「菊根分け」です。

「あとは自分の土で咲け」となるのですが、自分の力を信じることができる子に育てていく、しっかりした学力と体力、気力を付けていくという重要な役割を、学校と家庭が担っていかなければなりません。本校の児童は、自己肯定感が高いということが意識調査の結果から出ています。さまざまなことに興味・関心が高く、意欲的に取り組もうという児童が多くなっています。従って、自分の力を磨いていくことが、さらなる自信につながっていくことになります。これからは、家庭と学校が協力して、学力・体力、気力を高める努力を続けていきましょう。